

第18回Wリーグ

プレーオフ・セミファイナル 第2戦

会見要旨



シャンソン化粧品 シャンソンVマジック(1勝1敗)

■ チョン・ヘイル ヘッドコーチ

今日の試合に勝てたのは、選手たちが、昨日の試合を考えて、今日は負けたくないという気持ちを全員が持っていてくれて頑張ってくれたこと。

今日の試合でメンバーを変えた理由はいろいろあるが、その理由としては、選手の気持ちに刺激を与えたり、相手に予測をできないようにするなど色々ある。昨日のメンバーが、そのままであれば相手の気持ちもそのままになってしまうから、そう意味でもメンバーを変えてみた。

■ #8 藤吉 佐緒里 選手

気持ちの部分でスタートからいい流れが出来た。昨日はそれが1Qで終わってしまったが、今日は、1試合を通じて全員が強い気持ちを持ち続けていることが出来たのが良かった。

第18回Wリーグ

プレーオフ・セミファイナル 第2戦

会見要旨



トヨタ自動車アンテロース(1勝1敗)

■ドナルド・ベック ヘッドコーチ

まず、シャンソンの皆さんおめでとう。とてもフィジカルに一生懸命でシュートもよく入っていたので良い試合だったと思う。私は今63歳で、6カ国でコーチをしてきたが、今までのキャリアの中で15~18回プレイオフの舞台に立ったが、こうしたチャンピオンシップのような試合でフリースローを打たなかったことは人生で初めてだ。ファウルを得られなかったのは残念だ。

シャンソンはとても素晴らしいチームで、サイズの的にもトヨタよりも大きい選手が多いのでインサイドでアタックしていたように思う。シャンソンは2人のキープレイヤー（本川と三好）がしっかり点を取っていたから、シャンソンの勝ちに値するゲームになったと思う。

■#1 大神 雄子 選手

ここまできたら勝ちか負けしかないので、今、ここで自分たちが負けているということが事実。もちろん、一つ一つの部分に原因もあり、自分たちも絶対に負けたくないという気持ちで臨んでいるゲームだったので、正直悔しい気持ちもたくさんある。ただ、ゲームの出だしや、追いついたあとの自分たちの決めきるべきシュート、守ったあとの自分たちのシステムを遂行できなかった部分は、昨日よりは今日の方が多くみられたと思う。シュートというのは一日でガラッと変わるもので、自分たちも毎日何本もシュートを打って来ているので、そこは第3戦では迷わずに、(コーチも最後にハドルの中で言ったように) またみんなが試合ができるという喜びに変えて、思い切ってぶつかっていききたい。

このチームは本当にファミリーみたいなチームなので、第3戦は本当に何よりも、自分たちが自分たちのことを信じてバスケットをやりたいと思う。相手がシャンソンとか関係なく、自分たちのバスケットを、ベックヘッドコーチがこのシーズン通してやってきたことを信じてやるだけだと思う。

第18回Wリーグ

プレーオフ・セミファイナル 第2戦

会見要旨



デンソーアイリス(0勝2敗)

■小嶋 裕二三 ヘッドコーチ

昨日の反省を踏まえて臨んだ試合だったが、体力は勿論、技術、気持ちの部分でもすべてで JX-ENEOS に及ばなかった。試合内容は満足出来るものではないが、順位は頑張れたかなと思う。

ただ、現状に甘えることなく上を目指していかないと JX-ENEOS との差は広がっていくので、チームの強化は勿論、個々の選手の強化にも取り組んでいかなければならないことを改めて痛感した。

今日の試合はディフェンスリバウンドを取れずにオフェンスリバウンドを取られていた。

インサイドのボックスアウトで頑張っている選手がいるにも関わらず、外側の選手がこぼれ球に喰らいついていなかった。「オフェンスで走ろう。」というのが1Qでは利いていたが時間とともに体力が消耗してルーズになっていった。

(JX-ENEOS の印象について) レギュラーシーズンでの戦い方とプレイオフでの戦い方がまったく違うチームであるという思いがある。1つの試合に賭ける集中力というか、1つのプレイに賭ける丁寧さ確実に格段に上がっていく。勝負に賭ける意欲の強さが戦ってみると脅威である。早くそのレベルに辿り着きたいが、時間がかかると思う。数年前は吉田選手の怪我もあり少し近づけたかということもあったが、現在は差が開いている気がする。この差を近づける為にはひとつは高さの差を縮めること、そしてどんなに運動しても運動量が落ちない体力とプレイの正確さだと思う。

■#8 高田 真希 選手

実力の差だと思う。これを選手一人ひとりが受け止めてどうやって行くかが大事だと思う。この結果を踏まえて0からやっていきたい。

(JX-ENEOS の印象について) リーグでは前半は競ることが出来ていたこともあったが、プレイオフではプレイ自体は変わらないが、JX-ENEOS は選手一人ひとりが、ファイナルに行くという強い気持ちがかもっていて、その辺りが違うと思う。

第18回Wリーグ

プレーオフ・セミファイナル 第2戦

会見要旨



JX-ENEOSサンフラワーズ(2勝0敗)

■トム・ホーバス ヘッドコーチ

第2戦は、第1戦よりもすごく難しかったと思う。昨日は30何点差で勝っていて、第2戦は選手のモチベーションかなり落ちていたが、大きな影響はなかった。昨日みたいに宮澤の外のシュートが入らなかったが、1Qのディフェンスがすごくよかった。そして、1Qと2Qの3分くらいまで、すごく我慢のバスケットをやったと思う。そこからみんな落ち着いてJX-ENEOSのバスケットをやれたのがすごくよかったと思う。

JX-ENEOSはスターティングメンバーは、ファイナルの経験が結構ある。レギュラーシーズンも皆一生懸命頑張ったと思う。でもやはり、チャンピオンチームがもう一つの目標があると思う。このチームは吉田や渡嘉敷をはじめ、すごく経験がある。今週もレギュラーシーズンよりちょっともう一つ上に行ったかなと思う。来週もまた成果があるかなと思うと楽しみ。自分たちのバスケットをやれば良い、昨日よりも良いバスケットをやる。毎日そのくらいのほうが良いと思う。あまり遠いところを見ると細かいことを少しずつやらなくなるから、それはよくないと思う。

■#10 渡嘉敷 来夢 選手

今日の試合は本当に勝ててよかったと思う。昨日と比べて自分の外からのシュートはあまり入らなかったが、その分違う形で点を取るなど、あとはディフェンスでしっかりとチームに貢献しようと思っていたので、それが出来てよかったなと思う。

ファイナルでは、昨日今日よりも良いバスケットをコートで出来ればと思う。そして最後にみんなまで笑えるように頑張りたい。

■#0 吉田 亜沙美 選手

まずセミファイナル2勝で決められたというのはすごくよかったと思うし、ファイナルに向けてしっかりJX-ENEOSのバスケットが出来たので良い形で終わったのではないかなと思う。

まず9連覇に向けてファイナルのコートに立てるというのはすごくうれしいことでもあるので、9連覇というよりもJX-ENEOSのバスケットをファイナルのコートで見せたいというのが一番。